

穂別恐竜化石発掘 2013 年報告②



化石の保護のため、部分的に石こうジャケット（白い部分）をかけて、周囲を掘り進める。（9/7）



化石をジャケットで保護しながら、周囲を掘り進める。恐竜化石が含まれている部分は崖の下側か奥側であることが分かってきた。（9/10）



ジャケットを回収するために、下側を掘り込む。このあと、重機で引き抜いて回収した。（9/11）



削岩機・ハンマーなどを使って化石層周辺を掘り進めているところ。（9/13）

恐竜の骨化石がノジュール中だけでなく、ノジュールからはみ出していたり、その周囲のやわらかい母岩中にも骨化石が散在していました。そこで、骨化石を回収するためや、周囲を掘り進める際に、化石とその周辺を補強することを目的に、石こうジャケットをかぶせながら作業を進めました。

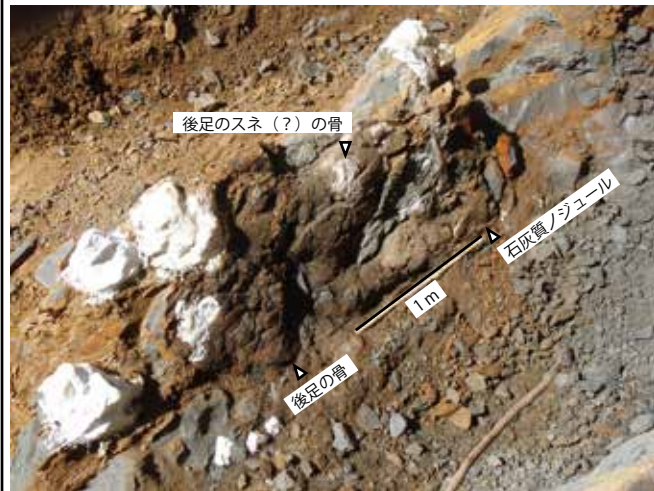
引き続き産出した尾椎骨の産状から、恐竜の化石は崖の下側か奥側に続いていることが予想されました。そこで、崖を重機で大きく掘削し、崖の下・奥側でさらに発掘を進めることにしました。既に産した尾椎骨が多数入っているジャケットを重機で取り外し、残った部分を一時的に埋めた上で、9/12に崖を大きく掘削しました。



後足の骨や巨大なノジュール。(地層の下位側から) (9/18)



石こうに浸した麻布を巻きながらジャケットを製作しているところ。(9/18)



後足の骨や巨大なノジュール全体写真。(地層の下位側から) (9/18)



発見された歯の化石。(9/20)

崖を大きく掘削したことで、発掘スペースが増え、発掘のペースが上がりました。そして、尾椎骨だけでなく、後足の骨などが産するようになりました（発掘された部位の詳細については、今後のクリーニング作業によって明らかになります）。また、1 mほどの大きさの巨大なノジュールや遊離した歯化石数点も発見されました。

骨化石はすべてが関節した状態ではなく、バラバラになった形で産出したものが多かったのですが、それらが元の骨格の位置関係をおおよそ保っていること、約 90 点におよぶ多数の骨要素が産したことから恐竜一個体の全身の骨格が埋没している可能性があることが分かってきました。

(学芸員 西村智弘)

【公共交通機関による来館案内】(バス停「穂別中央」～博物館は徒歩約 10 分)

往路 (札幌・苫小牧方面▶博物館)

- ・新千歳空港 10:40 ①▶穂別中央 12:03
- ・札幌駅 8:10 ②▶むかわ四季の館 9:35 -(乗換)- むかわ四季の館 9:41 ④▶穂別中央 10:45
- ・苫小牧駅 8:00 ③▶鶴川駅 8:29 -(乗換)- 鶴川駅前 9:39 ④▶穂別中央 10:45

帰路 (博物館▶札幌・苫小牧方面)

- ・穂別中央 16:17 ①▶新千歳空港 17:40
- ・穂別中央 15:40 ④▶鶴川駅前 16:45 -(乗換)- 鶴川駅 17:24 ③▶苫小牧駅 17:54
- ①道南バス 新千歳空港直行便 (1,470 円) 前日の 16 時までにて予約 (0145-45-2284)
- ②道南バス 高速ペガサス号 (2,340 円) 事前予約 (0146-42-1231)
- ③ JR 日高本線 (620 円)
- ④道南バス 穂別鶴川線 (200 円) ※各料金は大人 1 人分

12月 休館日

- 2 (月) 9 (月) 16 (月)
- 24 (火) 25 (水)
- 30 (月) 31 (火)

1月

- 1 (水) ~ 6 (月)
- 14 (火) 15 (水)
- 20 (月) 27 (月)

町民入館無料日

(特定入館日)
1月13日(月・祝)